

地域アイデンティティの理解を目指した地域学習に関する一考察

岐阜大学大学院 学生員 〇山田 孝太郎

岐阜大学 正会員 田中 尚人

岐阜大学 正会員 秋山 孝正

1. はじめに

今日、小学校教育では児童たちが身近な地域における自分たちの生活に結び付けた「自らの体験に基づく理解」が重要視されており、地域学習の担う役割は大きい。本研究の大目的は、地域アイデンティティの理解に繋がる地域学習プログラムを検討することである。そのために、岐阜県内の小学校中学年における地域学習を対象として、シラバス、教材などの実態調査及び児童たちへの地域の理解に関するアンケート調査を行った。

2. 地域学習における社会基盤整備の位置づけ

地域学習における社会基盤整備の重要性を指摘するとともに、岐阜県内における地域学習の特徴、及びアンケート調査票の概要を示す。

(1) 地域学習の概要

小学校教育は、文部科学省が教育課程の基準として告示する小学校学習指導要領¹⁾に沿って行われる。地域学習は、小学校学習指導要領(社会編)²⁾を基に各小学校の中学年の教員が小学校周辺の地理的特徴や気候、歴史、文化を考慮にいれて指導計画を作成する。

図-1に示した左側が、「県(都、道、府)のようす」における全国的な指導計画の基本的な流れであり、中央が岐阜県の小学校で行われている学習の流れである。岐阜県下では、国内でも特徴的な輪中地域が学習対象となっている。輪中という特殊な地形条件下において人々がどのように社会基盤整備を行い厳しい環境に対応・克服してきたのかを学ぶ。流域の代表的な指導計画を表-1

に示す。表-1を見てわかるように学習内容や時間数などは上中下流域でそれぞれ異なっている。また、他の単元「郷土の発展」に関しても、中流では「長良川のしめきり工事」、上流では「鬼谷湖をつくる」が取り扱われており、輪中地域の学習との関係性は中流地域では強く、上流地域では弱くなっている。

(2) 地域学習アンケート調査票の概要

アンケート調査項目(表-2)は岐阜県内の小学校4年生が2学期に共通して行う輪中地域の学習について、A3の用紙表裏1枚で10分程度の回答時間を想定し、図-1に示した岐阜県下の小学校の輪中地域の学習における学習のねらいである(i)~(iv)とアンケート調査項目のA~Dとが対応するように作成した。AからDの各問の作成意図について以下に示す。

(a)A. 輪中地域の理解について：問1では輪中堤、問2では水屋、問3では薩摩義士についての理解を問う内容とした。これらの3つの内容は岐阜県内の小学校が必ず行う木曾三川公園の見学で見聞きする事象である。

(b)B. 河川災害について：学習対象である輪中地域と関わりの深い水害に係る理解を問う内容とした。問4から問6の各設問において水害時の避難行動や水防団などのコミュニティ組織、インフラストラクチャーなど様々な観点から水害に関連する事象についての理解を測る設問を作成した。

(c)C. 身近な地域の理解について：輪中という特殊な地理的特徴や災害対策、地域コミュニティ活動、経済活動について学んだ児童が、自分の住む身近な地域における関係事象についてどのように認識しているかを知るために、問7では地域協力、問8では昔起こった大きな災害、問9では河川についての理解を問う内容とした。

(d)D. 地域への愛着について：児童の地域に対する愛着の度合いを明らかにするために、問10-(1)、(2)では地域を誇る場所について、問11-(1)、(2)では居住地に望むことについて、問12-(1)、(2)では自分の住んでいる地域への愛着について問う内容とした。

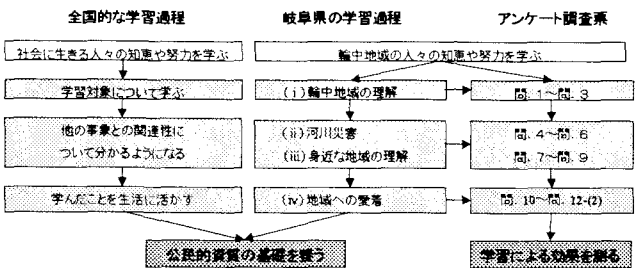


図-1 単元「わたしたちの県」における学習過程

表-1 上中下流別の学習指導計画

羽島市立桑原小学校 (下流)	岐阜市立長良小学校 (中流)	郡上市立八幡小学校 (上流)
単元構成 2. 郷土につたわる願い ・用水路を開く ・昔のくらし 3. わたしたちの県 ・土地のようす ・低地のくらし ・山地のくらし ・県の広がりとからし	単元構成 2. きょうどにつたわる願い ・長良川のしめきり工事 ・昔を調べよう ・学校のうつりかわり ・長良のうつりかわり ・長良の鶴岡と川祭り 3. わたしたちの県 ・自然と人々のくらし ・山地の人々のくらしと伝統工芸 ・低地の人々のくらし	単元構成 2. わたしたちの県 ・土地のようす ・輪中のくらし ・山地のくらし ・和紙づくりのさかんな美濃市 ・県の広がりとからし 3. きょうどにつたわる願い ・鬼谷湖をつくる ・昔のくらし ・ふるさとれきしマップ
時間数 (7) (9) (5) (11) (8) (4)	時間数 (35) (11) (4) (4) (12) (4) (20) (5) (9) (6)	時間数 (30) (5) (8) (6) (6) (5) (25) (9) (8) (8)

表-2 アンケート調査項目

地域学習に関するアンケート調査の項目
A. 輪中地域について 問1. 輪中地帯を知っていますか 問2. 水屋を知っていますか 問3. 薩摩義士を知っていますか B. あなたの住んでいる地域の「川と洪水」について 問4. 川が洪水になったらあなたはどっしますか 問5. 水防団(地域によっては消防団)について知っていますか 問6. 堤防の一番大切な役割は何だと思いますか C. 地域を知る 問7. 地域の人が協力することの中で一番大切だと思うことは何ですか 問8. 昔、あなたの住んでいる地域で起こった大きな災害は何ですか 問9. 岐阜県にある大きな川の名前を3つ書いて下さい D. 地域を好きになる 問10-(1). あなたの身近な地域で、有名な場所や自慢できる場所がありますか 問10-(2). そこはどこですか 問11-(1). あなたは大きくなったらどこに住みたいです 問11-(2). それはなぜですか 問12-(1). あなたは自分が住んでいる地域が好きですか 問12-(2). その理由はなぜですか

表-3 アンケート対象校一覧

小学校名	大垣市立流崎	大垣市立東小学校	羽黒市立桑原	海津市立高須	岐阜市立加納	岐阜市立長良	岐阜市立長良西	岐阜市立八幡小学校	岐阜市立八幡小学校
4年生の人数	71(2クラス)	108(3クラス)	35	70(2クラス)	77(2クラス)	76(2クラス)	43	67(2クラス)	122(3クラス)
アンケート依頼状況	9月6日	8月31日	9月7日	9月8日	9月9日	9月9日	9月9日	9月12日	9月12日
アンケート回収状況	10月4日	9月26日	10月4日	9月9日	10月4日	10月4日	9月12日	10月4日	10月4日
アンケート回収数	70	106	34	63	60	62	40	63	116

3. 地域学習に関するアンケート結果の考察

地域学習による社会基盤に対する理解の向上と、地域アイデンティティの理解、及び地域への愛着の関係性を明らかにするために、小学校中学年の児童を対象として、地域学習における地域の理解に関するアンケート調査を行い、結果を整理し考察を行った。

(1) 地域学習に関するアンケート結果の整理

地域学習の教育効果を測るために、岐阜県内の小学校9校^{*}において、地域学習に関するアンケート調査を行った。アンケート調査の概要を表-3に示す。

アンケートの回答を集計した結果を、指導計画における学習のねらいに着目してアンケート調査結果の特徴をAからDに別けて整理した。

(a)A: 問1の輪中堤についてと問3の薩摩義士については全ての学校において「知らない」の回答が多く、図-2に示したように、問2の輪中堤については、「知らない」と回答した割合が、下流域では他の地域よりは比較的低く平均75%程度、中流域では上流域よりやや多く平均85%程度、上流域では90%以上であった。

(b)B: 問6の堤防の役割において重要と考える機能を問う設問では、選択肢(1. 交通機能, 2. 防災機能, 3. アメニティ機能)の内、2の防災機能を選択した児童が圧倒的に多く、下流域で平均95%程度、中流域、上流域は平均85%程度であった。

(c)C: 問8において昔自分たちの地域で起こった大きな災害について聞いており、選択肢(1. 土砂崩れ, 2. 地震, 3. 洪水, 4. 火事, 5. 知らない)の内、全体的に5が選択された割合は少なく平均5%程度だった。各地域の特徴として、下流域では3が多く、中流と上流では2, 4が多かった。

(d)D: 図-3に示した問. 12-(1)の回答のように、地域への愛着に関する設問については、流域による違いはみられなかった。しかし、図-3において上流域である八幡小学校では目立って多く「好き」が選択されている。問10-(1)の「身近な地域の有名な場所や自慢できる場所」についても他の小学校では平均70%程度の児童が「ない」又は「わからない」を選択しているが、八幡小学校では「ある」を選択している児童が目立って多く、問10-(2)の記述式の回答においても60%以上の児童が「宗祇水」と回答している。

(2) 児童の地域理解に着目したアンケート結果の考察

アンケートを集計した結果を輪中地域に関する理解と身近な地域に関する理解に着目して考察を行った。

(a)輪中地域に関する理解についての考察: A及びBの輪中地域の理解に関する設問において、前節(a)及び(b)の結果、輪中堤に関する理解など学習対象の身近さに関係

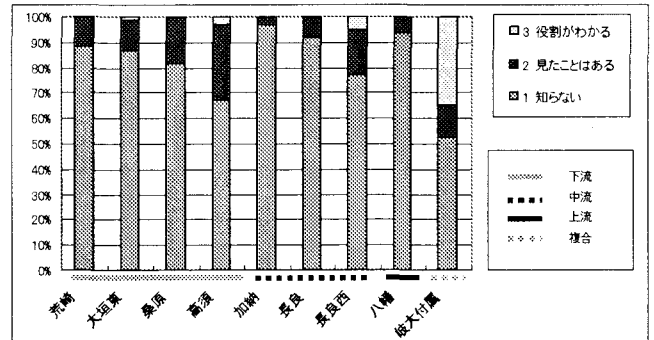


図-2 アンケートにおける問1の回答

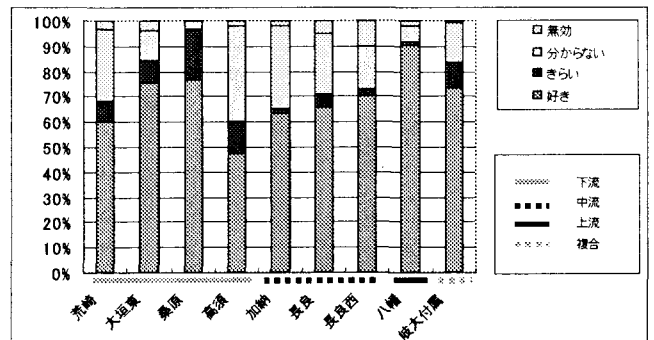


図-3 アンケートにおける問12-(1)の回答

性がある回答が見られた。この結果より、学習対象が身近なほど理解に関する学習効果も高いと考えられる。

(b)身近な地域に関する理解についての考察: C及びBの地域アイデンティティの理解と地域への愛着に関する設問においては学習対象の身近さとは関係性が見られなかった。しかし前節(d)の結果より、地域への愛着と地域アイデンティティの理解とに比例関係が見られた。八幡では「水のまち八幡」として地域アイデンティティが明確であるため地域への愛着が高いと考えられる。

4. おわりに

岐阜県内の小学校中学年を対象として、アンケート調査を行い、地域アイデンティティの理解と地域への愛着の関係性について考察した結果は以下の2つである。

- ①輪中地域に関する理解は下流域の方が高い。
- ②身近な地域の理解については地域による差がない。しかし、八幡のように地域アイデンティティが明確であるため地域への愛着が高いと考えられる例も存在した。

この結果を踏まえて、今後は学習対象と小学校の立地位置や学習プログラムの効果に着目し、地域アイデンティティの理解と地域への愛着の向上の関係性を検証する。

【参考文献及び補注】

- 1) 文部科学省: 小学校学習指導要領
 - 2) 文部科学省: 小学校学習指導要領(社会編)
- ^{*} 岐阜大附属小学校, 長良小学校, 長良西小学校, 大垣市東小学校などの中学年社会科担当教諭及び4年生の児童に2005.10~12の間にアンケートやヒアリング調査にご協力頂いた。